

今井中通信

教育目標

- ◎ 心身の健康
- ◎ 自他の尊重
- ◎ 生き甲斐の発見

夏の出来事から考えること

～「満開の笑顔」を大切に～

校長 小林 格

40日近い夏休みが終わり、学校には生徒たちの元気な声が戻ってきました。ここ数年の夏休み前後の話題をひろってみますと、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策継続、令和4年度は引き続きの感染症対策を講じながらも、ようやく戻ってきた学校生活の様子。昨年度は継続する酷暑に関する内容など様々です。今年度も同様に熱中症対策についての呼びかけ等が必要な状況となっている中、8月8日には、初めて出された「南海トラフ地震臨時情報」や15日には台風7号の接近による川崎市内全域での避難所開設など、いわゆる天災と言われる事象からどのように身を守っていくかをあらためて考えさせられる夏ともなりました。夏休み明け27日には、地震を想定した防災訓練及び地区別集団下校を実施しました。日頃の学習、そしてこうした機会を通じて、防災への心構え、地域理解はもちろんのこと、大切な命を守ることに、考えを深めてもらえればと思います。

また、夏休み中の8月には自然災害以外にも必ず思い出さなければならない話題が報じられます。それは6日の広島、9日の長崎への原爆投下、そして15日の終戦日など戦争に関する内容です。当時の悲惨な状況や人々の切ない思いなど、胸が痛くなる報道は毎年繰り返されます。現在の平和な日本で過ごすことができるありがたさや、惨劇を二度と繰り返さないための教育の大切さを考えずにはられません。私たちは戦争を繰り返してはいけないこと、平和を大切にしなければならないことをしっかりと受け止める必要があります。

そこで、私たちが身近なことから何が実践できるか、考えてもらいたいことを三つ挙げます。一つ目は「まわりの人に思いやりをもって接し、相手のことを考えて行動すること」。二つ目は「どんな事にも、みんなで協力して、全力で努力し、楽しむこと」。三つ目は「毎日学校へ通えていること、毎日ご飯を食べられていること、そういう身近なことへの感謝の気持ちを忘れないこと」です。自分と自分の身の回りの「小さな平和」をつくっていくことが「大きな平和」につながることを願います。

今井中学校の校舎外周りの花壇には、ボランティアのメンバーが埋めてくれたヒマワリの種と一緒に「満開の笑顔」などと書かれた札がいくつかにささっています。私はこれを見た時、何とも言えない心温まる気持ちをもたらしたのと同時に、今井中学校の可能性を感じました。「大きな平和」につながる「小さな平和」をこうした場所からも感じられたことに、とても感謝しています。